

平成19年10月30日

各位

会社名 株式会社りそなホールディングス
代表執行役社長 檜垣 誠司



コード番号 8308

上場取引所 東証・大証 各市場第1部

平成20年3月期 中間業績予想について

当社は、平成20年3月期中間業績に関し、現時点において以下の通り予想しておりますのでお知らせいたします。

I. 中間業績予想〔平成19年4月1日～平成19年9月30日〕

(単位:億円)	連結業績			単体業績		
	経常収益	経常利益	中間純利益	営業収益	経常利益	中間純利益
前回予想 ①	5,100	1,400	1,000	3,900	3,800	3,800
今回予想 ②	5,400	1,350	1,200	3,900	3,800	3,800
増減額 ②-①	+300	△50	+200	—	—	—
増減率 (②-①)÷①	+5.8%	△3.5%	+20.0%	—	—	—

【参考】傘下銀行合算の中間期業績見込(詳細は決算発表時にお知らせいたします)

(単位:億円)	傘下銀行					前回予想比 ^(注2)
	りそな	埼玉りそな	近畿大阪	りそな信託	合算(概算)	
業務粗利益	2,110	800	340	150	3,400	△200
経費(△)	1,160	360	220	60	1,800	+100
実勢業務純益 ^(注1)	950	440	120	90	1,600	△100
株式関係損益	△100	—	—	—	△100	△120
与信費用総額(△)	20	50	50	—	120	+160
税引“前”中間利益	960	390	60	90	1,500	+100
税引後中間純利益	(平成17年度より連結納税制度を採用しております)				1,200	+150

(注1) 「実勢業務純益」は、信託勘定不良債権処理、一般貸倒引当金繰入前の業務純益

(注2) 「前回予想比」欄は、中間純利益に対してプラスに影響する場合には「+」、マイナスに影響する場合には「△」を付しています。

II. 中間業績予想の内容

- 当中間期の連結中間純利益は、傘下銀行において、役務取引等利益が引続き順調であること、経費が減少したこと、取引先の業況回復や貸出金回収等により与信費用が減少したこと、等から前回予想を上回る見込です。連結経常利益は、与信費用の戻入が取立益として特別利益に計上されるため、前回予想を下回る見込です。
- 傘下銀行合算の中間業績では、前回予想比、業務粗利益等の減少を予想しておりますが、これはポートフォリオの健全化を目的に、りそな銀行において、有価証券のうち国内株式型を中心とした投資信託を売却し、損失を計上する一方、含み損を一掃したこと等によるものです。(※下表、その他有価証券の「その他」参照)
- 尚、米国サブプライムローンに関連する証券投資等の残高は一切ないこと、ファンドオブファンズにおいて関連投資を行っているファンドが5億円程度判明していること、は本年8月6日にお知らせしたとおりです。

【参考】りそな銀行“その他有価証券で時価のあるもの”の見込

単位:億円

	平成19年9月末		平成19年3月末		増減	
	取得原価	評価差額	取得原価	評価差額	取得原価	評価差額
その他有価証券	37,553	2,477	42,671	3,050	△5,118	△573
債券	32,215	△243	32,444	△264	△229	+20
株式	2,920	2,660	2,921	3,261	△1	△600
その他*	2,417	59	7,305	52	△4,887	+6

以上

(注) 上記に記載した予想値については、本資料の発表日現在における入手可能な情報に基づいて算定しておりますが、実際の業績については、今後の様々な要因により異なる結果となる可能性がありますので、ご承知おきください。